

2022年度 第2回 須坂市地域公共交通会議 議事録

【日時】 2022年12月6日(火)午後2時00分から4時00分

【場所】 シルキービル 3階 第2ホール

【参加者】 別 紙

【配布資料】

- ・次第
- ・須坂市地域公共交通会議資料
- ・(資料1)バスこども無料デーチラシ
- ・(資料2)まちの元気創出事業「日曜祝日特別運行バス」実証報告
- ・(資料3)地域公共交通計画の策定について(株オリエンタルコンサルタンツ提供)
- ・(資料4)長野地域における地域連携ICカードの乗車サービスの提供について

【内 容】

1 開 会

欠席者の報告。

《出席19名(代理出席1名) 欠席6名、委託事業者3名、まちづくり課2名》

連合長野高水地域協議会須高地区連合会の委員が交代となった。

会議は公開。議事録作成のため、会議内容を録音。

会長よりあいさつ

2 議 事

(1) 協議事項

①バスこども無料デーの開催について

【事務局より説明】

➡議案①は、賛成多数により承認。

②まちの元気創出事業「日曜・祝日特別運行バス」実証実験報告について

【事務局より結果報告】

【会長】

・資料2、P6にアートパークの停留所がわかりにくい等の意見があるがどのような対応を考えているか。

【事務局】

- ・アートパークのバス停については、即席で設けたものであったため周知が遅れた。
- ・全体のバス停では、片バス停や文字が見にくいなど課題が散見している。地域公共交通計画に位置付けるか未定だが、市の施策としてバス停のリニューアルを検討している。

【アドバイザー】

- ・春は無料で運行していた路線で、秋は仙仁線と経路を合わせ200円運賃で運行したら、どのような利用が得られるかという目的で実施した。
- ・今回もかなりの利用があり、売上をみると、1台の車両で24,000円を稼いでいる。これは、市民バス全路線1日で稼ぐ金額に相当する。
- ・普段、自家用車で移動する子育て世代からの利用が得られたのは大きな効果である。
- ・今後、イオンモールを含めた路線網を検討する必要があるが、今回の結果はその際に重要な資料となる。
- ・楽しい仕掛け、普段のバスに仕掛けられるとよい。良い足がかりになったと思う。

③須崎市地域公共交通計画の策定について

【事務局より協議する内容について説明】

↓

【委託事業者より調査結果(課題)および方針・目標について説明】

■免許返納後の公共交通利用促進に関する協議

【委員】

- ・資料3-1のP5に記載されている、将来運転できなくなった場合の不安というのは同感であり、自身も不安を感じている。
- ・免許証を返納した際に、バスの利用について警察から情報発信を行うことはできないのか。素晴らしい基本方針をいかに市民に理解してもらえるように発信していくかが重要である。それが免許の返納のしやすさに直結するのではないか。
- ・特に山際は1時間に1本しかないため不便である。10人乗り位の車で町中を巡回するような工夫も他地域であったため、高齢者の移動をサポートするための施策としても考えられる。

【会長】

- ・免許返納時に警察ではどのような情報発信を行っているのか。

【委員】

- ・ご意見はごもっともである。免許の返納は毎日対応しているが、自家用車から公共交通機関に移動手段を変更される方もいる。皆さん悩んで免許返納の決断をされている。
- ・運転経歴証明書を交付しているが、実際に返納したときに公共交通機関を利用するメリットについて窓口で分かりやすく発信する必要がある。
- ・支援施策の一覧表があるので、後日共有させていただく。

【会長】

- ・わかりやすく案内してくれる内容があれば良い。

【事務局】

- ・令和2年から65歳以上の免許返納者の方にICカード(以下、くるる)を配布している。窓口である交通安全協会の方からもくるるの案内をしていただいている。案内に当たっては市民課交通防犯係と須坂警察署で連携して実施している。
- ・もっと関心をもっていただけるよう、今年から新しくくるるのチラシを作成し説明していただけないかと窓口に依頼をしている。
- ・9月からくるるの受け渡しがしやすいように須坂市役所でくるるを配布できるようにし始めたところである。今後も交通安全協会での情報提供時にバスの利用促進に関する案内を行いたい。

■市民バスの小型化に関する協議

【委員】

- ・バスの利用促進についての情報提供はありがたいが、大型のバスで1～2人しか乗車していないことを考えると、現在のような大型バスでなく、小型のバスで地域を巡回して便数を増やすような施策を講じることはできないか。

【アドバイザー】

- ・小型の車両導入による便数の増加については、実態としてそこまでの増便はできない。
- ・東北で鶴岡市が隣の酒田市と結ぶバスをワゴン車に変更し利用者を倍増させた事例があるが、これはもともとのダイヤがでたらめで乗務員が足りないという背景があった。
- ・いわゆるオンデマンド型のサービスで便数を増やそうとすると台数を増やす必要がある。加えて予約の不便さも課題となりうる。
- ・一時間に一本の便数は確保しているが、路線や運行エリアがこのままで良いか考える必要がある。
- ・資料3-1、P19について、10年前は、駅前イオンの円がもっと大きかった。ツルヤ・デリシアの立ち位置が相対的に大きくなったので、駅で降車しても、目的地が遠い、という課題が発生している。
- ・今の経路を変えて、やれることはないかを追求していくことが必要。
- ・同資料のP21にくるるの利用状況があるが、仙仁線以外の他路線の利用状況もみたい。
- ・具体的な路線の検討において、このデータは重要になってくるのではないかな。どのように運行していくか検討するための要素となる。

■今後の交通需要への対応と将来路線の検討に関する協議

【委員】

- ・今回の取組の報告について見やすく整理されていてありがたい。
- ・地域公共交通会議として市内のバス路線を検討することも大切だが、資料2で長野東高校への通学に関する意見があったように、高校生の通学については長野電鉄屋代線の廃線に伴って、代替バスによる需要は一定数存在する。一方で現行のダイヤは通学に即したものであるように感じている。
- ・須坂市民の移動を考えると地域間幹線系統の維持、市の負担軽減についても検討していただきたい。特に須坂屋島線方面についてもう少し力を入れていただきたい。
- ・スザカのサスガをさがすバス(実証運行バス)はネーミングが良かった。そのほか、渋谷区のハチ公バスのようにキャッチーな愛称があると、もっとバスに対して愛着がわくのではないかな。

【事務局】

- ・長電バスとイオンで路線を増やそうと協議をしている。実際にイオンが開業しないと具体的な路線は検討できないが、長電バスと調整しながら路線の追加を検討する。
- ・須坂東高校が統合されるという話がある。その影響で市内から長野東高校へ学生が流れることが予測される。通学需要に対応できるようなダイヤを検討していく必要がある。

【アドバイザー】

- ・資料3-1のP7について、日常的な公共交通の利用状況で、電鉄の利用状況の割合があるが、駅までの移動手段については須坂駅とそれ以外の駅で区別しても良い。
- ・長野市内のJR線になると送迎の割合が高くなると思う。須坂市内では自転車や徒歩の割合が高いのはポイントの一つである。
- ・同資料のP9について、バス利用者アンケートのバス利用のきっかけについて20代-40代で「Googleマップでバスの情報を調べられるため」の回答がある。市民バスの定期券の販売数がほぼ倍になっていることから、ネット上で調べられる環境にあることで若年層の利用が増えていることが特徴である。これは大切にすべき点である。
- ・同資料のP11, 12について、北相之島線、明徳団地線の扱いは悩ましいところである。北相之島線については4往復半、明徳団地線は7往復ある。明徳団地線は湯ヶ蔵んど-仙仁間と同程度の便数、また須坂屋島線よりも便数が多いが利用者数は少ない。これらの路線については今後もこのままの運行形態でいくのか議論をする必要がある。
- ・最近の事例としてバスを利用して、昼間にオンデマンド型サービスを導入した地域が北関東にある。
- ・明徳団地線のルートについて、仙仁・米子線に比べ利用が薄いのであれば、なんらかの対応が必要である。

■地域公共交通計画の基本方針に関する協議

【会長】

- ・基本方針について、今回は資料に記載された案から選ぶのか。

【事務局】

- ・今回は記載のキーワードを使って検討を進めて良いかということを決めたい。
- ・須坂らしさや子育て世代を含めたキーワードなど、ご意見があれば伺いたい。

【会長】

- ・ご意見が無いようであれば、このキーワードを用いた基本方針で良いか。
- ➡基本方針について、賛成多数により承認。

【事務局】

- ・本日、欠席者が6名いるため、後日改めて通知を送付する。ご意見があればその際に頂戴したい。

④地域公共交通計画策定における今後のスケジュールについて

【委託事業者】

- ・本日の基本方針や課題に則した内容について交通事業者の皆様からご意見を頂きたい。
- ・1月の協議会についてまず皆様に素案を提示しご意見を伺う。その後2月にパブリックコメントを実施できればと考えている。

【事務局】

- ・事業者ヒアリングについて12月中の開催を想定している。会議後に日程調整を行いたい。
- ・第3回の協議会については、1月24日頃の実施を想定している。

3 報告事項

①すざか市民バス・すざか乗合タクシーの利用状況について

②バスICカードくるるの利用状況について

【事務局より①・②について一括して説明】

【アドバイザー】

- ・市民バスについて9月10月は令和元年の水準に戻りつつあるのは良いことである。
- ・乗合タクシーについては年度による振れ幅が大きい。背景として利用者の年齢が高く、個人による変動が大きいことが想定される。そのため増減で一喜一憂することはできない。
- ・市民バスの定期券や昼割についても利用が伸びている。このまま回復すれば、今後の計画策定において新型コロナの影響を意識せず記載ができるのではないか。

③その他

【事務局より地域連携ICカード導入について説明】

【会長】

- ・長野電鉄ではICカードを導入しないのか。

【事務局】

- ・費用および技術的な面から鉄道への導入は難しいと聞いている。

【委員】

- ・長野電鉄への導入については、コスト面でも厳しいと聞いている。

【アドバイザー】

- ・地域連携ICカードについて、ローカル線に導入するということを想定されていないため、鉄道への導入は今後の課題。
- ・須坂の場合、昼割等の独自の割引制度があるが、地域連携ICカードでは割引でなくポイント付与という仕様になる。そのような施策について、地域連携ICカードでの制約が発生する可能性もある。
- ・今後、システムの構築の検討がなされると思うが、システム上、このような割引施策が対応可能かどうか、また事前にヒアリングできるかについて、スケジュール感を長野県に伺いたい。

【委員】

- ・県としては、全県的に地域連携ICカードを推進する方針となっている。
- ・独自の制度設計についてはシステム会社やベンダーと議論をしながら検討することとなる。本日の内容についてICカードの担当にも伝える。

【アドバイザー】

- ・システムを予見しながら、スケジュール感を共有いただきたい。

【事務局】

- ・参考資料として、「マイライドのるる」のパンフレットを同封した。これは施策の一つとしてご用意している。高齢者利用の不安や学生の利用促進についてもこのような施策導入も一案になると考えている。あくまで参考として本日は皆様にお示ししている。

【アドバイザー】

- ・茨城県高萩市で導入されている事例。もともと路線バス2台が走行していたが、昼間の時間だけデマンド型のサービスを提供している。スマホを持っていないユーザーは電話でオペレーターを経由して予約ができる。
- ・どのようなエリアでも走らせることが出来るわけではなく、南北4km程度で走行している。そのため須坂市で導入するにしても全域をカバーできる訳ではない。
- ・このようなサービスをやることがゴールではなく、課題解決のツールの一つとして理解していただきたい。

以上、討議・報告事項は終了。

4 閉会